

きいちゃんの いきいき支え合い通信

この通信では、地域の「顔が見える」関係の中で、日常生活の困りごとを助け合い、支え合う活動が進むことを願い、生活支援に関する県内の先進事例等を発信していきます。



第6号
令和3年12月
和歌山県
長寿社会課

ココがすごい！

支え合い事例紹介 海南市「下津ファミリー」

海南市の下津地区では、第2層協議体「下津ファミリー」を立ち上げ、誰もが安心していきいきと暮らせる地域を目指し、話し合いがなされています。

今回、アンケート調査を実施すると聞き、「下津ファミリー」の島津さん、脇さん、亀井さんにお話をお伺いするとともに、協議体会議を見学させていただきました。

また、後日、実際のアンケート調査の場にも同行させていただきました！



下津ファミリーと民生委員の皆様

立ち上げた経緯は？

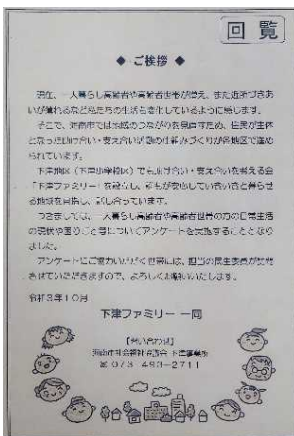
もともとは生活支援コーディネーターからの依頼があったことがきっかけで、令和2年9月に第2層協議体「下津ファミリー」として立ち上げることとなりました。区長や民生委員を兼務し、地域に通じている島津さんが声掛けを行い、集まった6名が発起人として結成されました。

活動内容は？

定期的な話し合いを重ねる中で、まずは地域の高齢者の方の日常生活の現状や困りごとを把握することが大事だということで、アンケート調査を実施することとなりました。

そこで、普段から住民と関わり、状況をよく知っている民生委員（民生委員・児童委員、主任児童委員）に協力を依頼。聞き取り訪問をしていただくだけでなく、協議体会議に参加してもらい、実施方法や聞き取り内容についても一緒に考えられたとのこと。

また、区長会の協力を得て周知を図るなど、他団体と連携、協力しながら取組を実施されています！



アンケート調査周知の回覧

訪問によるアンケート調査を実施！

アンケート調査の方法はいくつかありますが、今回、訪問して調査することとした理由は、実際に会って話をすることでその人の様子がわかり、項目以外にも柔軟に聞き取りをすることができるからだということです！

また、もともと民生委員の方々が地域の高齢者を訪問する地盤があったとのこと。

詳しくは次ページ

「命のカプセル」の取組も同時に実施！

命のカプセルは、災害時等に備えて、持病やかかりつけ医、薬の名前、緊急連絡先等の情報をカプセルの中に入れ、普段から冷蔵庫に保管しておく取り組みのことで、海南市では以前から民生委員が命のカプセル事業に取り組んでいましたが、コロナ禍により中断していました。



訪問して説明し、設置をお手伝い！

感染者数が少なくなっている今、命のカプセルの取組を再開したいということで、アンケート調査とセットで実施！

アンケート調査の訪問時に、カプセルを手渡して説明するとともに、ご自身でカプセルの設置ができない方には、聞き取りながら書いてあげ、カプセルに入れて設置してあげていました！



県からのお知らせ

●今年度から「生活支援専門アドバイザー派遣事業」を実施しています。是非ご活用をお願いします。

●皆様の取り組みを紹介させていただきます。県職員が取材に伺いますので下記までご連絡をお願いします。

連絡先：和歌山県長寿社会課 電話：073-441-2521



アンケート調査に密着取材！

アンケート調査は、下津地区の7地区をそれぞれ担当の民生委員の方が訪問することとなりました。今回、新田地区担当の島津さんに同行させていただき、聞き取り訪問の様子を2件取材させていただきました。訪問先の方々に合わせた対応、きめ細やかな聞き取りはお見事でした！

高齢者のみ世帯のNさん

まずはご夫婦でお住まいのNさん宅。買い物や食事の準備は自分たちでできているか、どのような薬を飲んでいるか、特に困っていることがないかなどを聞き取りされていました。Nさんは「来てくれたら、わからんことを島津さんに聞けるし、知らないことを教えてもらえるのでとても助かっている。今回の命のカプセルも知らなかったの、教えてもらえて嬉しい」と感謝されていました！

ひとり暮らしのSさん

次に訪問させていただいたのは、耳が聴こえにくくなっているSさん宅。玄関が閉まっている時、島津さんはいつも裏口から入らせてもらうそうで、この日も裏口からお邪魔しました。そして、聞き取りの際には、Sさんに聴こえるように耳元でしゃべりながら、指差しを交えてコミュニケーションを取られていました。Sさんからは、ゴミ出しがしんどいけど隣人などが助けてくれるので大丈夫なことや、近所に住んでいる子供に部屋の掃除をしてもらっていることなど、生活状況を教えてもらいました。島津さんは、質問を単に「はい/いいえ」だけで答えてもらうのではなく、何に困っているのか、なぜ困っていないのかなど具体的な内容を聞き取り、記述していました！

今後の取組について

アンケート調査は11月と12月の2か月間で実施し、とりまとめを行った後、3月に協議体会議で結果を共有する予定とのことです。結果を踏まえ、こういった取組につなげていくかについては、今後じっくり話し合っていくそうです。島津さんは、「アンケートの聞き取りは、一人暮らしの高齢者の話し相手にもなるのでとても良い。このアンケートにより地域への接し方、個人への接し方がわかってくると思うのでとても重要。」とおっしゃっていました。また、「アンケート調査により「下津ファミリー」のメンバーになりたい人が出てくるかもしれない。」と期待していました！



メンバーの想い

「下津ファミリー」発起人のうちの3名の方に、取組を実施するにあたり心がけていることや取組にかける想いを聞きました。



島津さん

「向こう3軒両隣」「隣の家の醤油を借りる」「よその子を叱って地域で育てる」といった社会を復活させたいと思っている。この取組をしていて、「ありがとう」と言ってもらえることが嬉しい。



脇さん

高齢者の見守り活動は、難しいけれど進めていかなければならない、大事なことだと思っている。地域は高齢化しているが、前を向いてなんとかしていかなければならないと思い、活動している。



亀井さん

サラリーマン時代は時間がなく地域のことをできなかったが、この取組を始めて地域のつながりができた。今回のアンケート調査は、次に地域でやることが見えてくる大事な取組だと思っている。